

勝又さん、佐藤さん祝福

市民会館で和辻哲郎文化賞授賞式

500人を前に喜びかみしめ

姫路出身の哲学者、和辻哲郎（1889～1960年）にちなんだ「和辻哲郎文化賞」の授賞式が6日、姫路市総社本町の同市市民会館であった。文芸評論家で法政大名誉教授の勝又浩さん（77）＝横浜市＝と東京大大学院総合文化研究科准教授の佐藤光さん（47）＝東京都三鷹市＝の受賞者2人を、市民ら約500人が祝福した。

（川口洋光）

同賞は和辻の生誕100年を記念し、1988年度に姫路市が創設。今回は、2014年9月～15年8月発刊の214点から、哲学者の梅原猛さんらが審査して選んだ。

勝又さんの「私小説千年史 日記文学から近代文学まで」（勉誠出版）は文化一般の著作が対象の「一般部門」、佐藤さんの「柳宗悦とウィリアム・ブ

レイク 環流する『肯定の思想』（東京大学出版会）は「学術部門」で受賞した。

勝又さんは「和辻哲郎の名前を冠した賞をもらえてうれしい」と喜び、「日本語の性格

という問題に踏み込んだ。そこを読んでもらった」と話した。佐藤さんは「最近の風潮として、人文研究の旗色が悪いように感じている。その中で賞をもらえて大きな励みになる」とし、「一次資料の発見と地味な実証研究を評価

してもらった」と述べた。



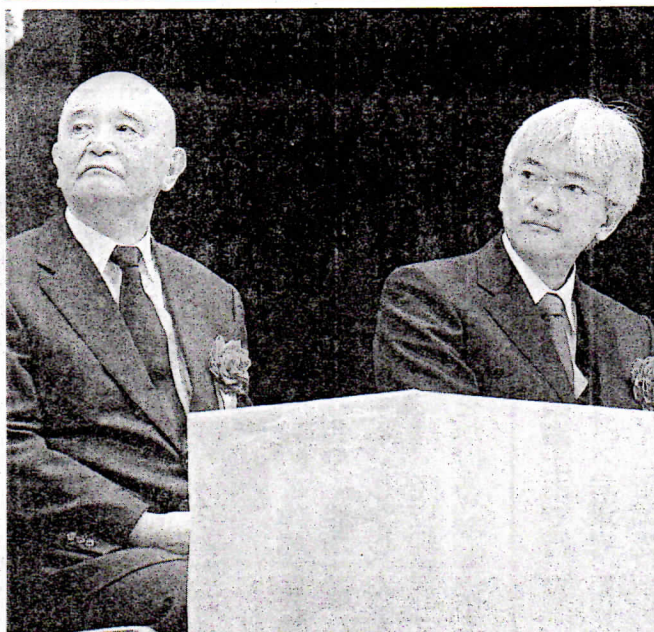
正賞の蒔絵（まきえ）の羽子板を持つ勝又浩さん（右）と佐藤光さん＝姫路市市民会館

研究活動さらなる意欲

和辻賞授賞式 勝又、佐藤さん

第28回和辻哲郎文化賞の授賞式が6日、姫路市総社本町の市民会館であった。一般部門で勝又浩・法政大名誉教授(77)(神奈川県)に、学術部門で佐藤光・東京大大学院総合文化研究科准教授(47)(東京都)に、賞状や記念品が贈られた。式典では、「私小説」が伝統文学であることを解き明かした勝又さんの著作について、選考委員で哲学者の梅原猛さんが「独創的でユニーク。大胆な文学論を高く評価したい」と賞した。

また、民芸研究家で思想



授賞式に出席した勝又さん(左)と佐藤さん(姫路市総社本町で)

リスの詩人、画家のウィリアム・ブレイクに共通する「肯定の思想」を、日英の資料から検証した佐藤さんの作品に対し、推薦会

三和印房

姫路・西二丁目
288-12

員の鈴木泉・東大大学院准教授が「比較文化研究における壮大なものに仕上がっている。学問としても十分な価値がある」とたたえた。

勝又さんは「受賞に感激している。今後は仏教の研究もやってみたい」と意欲を見せた。佐藤さんは「これからの研究の励みになる。多くの人との出会いがなければ、この作品は完成できなかった」と振り返った。

また、記念講演として、作家の荒俣宏さんが「自然と文学」をテーマに話した。